

はじめに

当センターの前身は、平成4年8月に保健部門の衛生研究所と環境部門の環境センターを統合した広島県保健環境センターであり、平成19年度には、県内8つの県立試験研究機関の総合見直し計画に基づく一元化により「広島県立総合技術研究所保健環境センター」として組織再編され、現在に至っています。

広島県立総合技術研究所は、保健衛生・環境、食品、工業（西部・東部）、農業、畜産、水産及び林業の各分野を担う8つのセンターで構成され、様々な研究を実施しています。当センターは、特に「県民の健康と快適な生活環境の確保」を使命とし、保健衛生及び環境の分野において、危機管理対応と行政施策の実現のため、試験検査や調査研究を通じて、技術支援や技術開発等の業務に日々取り組んでいます。

保健分野では、感染症発生動向調査や流行予測調査の病原細菌やウイルス等の検査、大規模食中毒の原因となる病原性大腸菌やノロウイルス等の検査、無承認・無許可医薬品成分検出技術の開発、食品中の残留農薬や食品添加物等の化学物質、遺伝子組換え食品、麻痺性貝毒等に係る試験・研究を行っています。

また、新型コロナウイルス感染症の流行が社会の大きな問題となり、当センターは、発生当初から新型コロナウイルスの検査、ウイルスゲノム解析等を通じて、感染拡大防止に寄与してきました。本感染症は、令和5年5月に感染症法上の位置付けが5類感染症へ移行しましたが、引き続き注意していく必要があります、その他の病原体の動向も注視しつつ、今後起こりうる新興・再興感染症に備えていきます。

環境分野では、大気中の有害物質やアスベストのモニタリング調査、微小粒子状物質(PM2.5)の成分分析、環境中の放射能測定、鳥インフルエンザの検査、瀬戸内海の水質や干潟の改善に係る調査研究等を実施しています。

行政ニーズ対応研究の一環として、建物の解体現場や災害時に倒壊した建物の建材等に含まれるアスベストの有無を迅速に判定できる技術を開発して特許を取得し、令和4年5月、民間企業と共同で、現場で「安価・迅速・簡単」に、すべてのアスベストを検出できる『アスベスト検出キット』の製品化を実現しました。開発した技術を応用する研究にも引き続き取り組んでいます。

この度、令和4年度の業務内容を年報として取りまとめました。業務の遂行に当たり、関係行政機関から御指導、御協力を賜り、心からお礼を申し上げます。

今後とも、広島県職員の行動理念に掲げられた「将来にわたって『広島に生まれ、育ち、住み、働いて良かった』と心から思える広島県の実現」に向け、県民の付託に応えていく試験・研究を実施してまいります。

この年報により、当センターの活動・業務を御理解いただき、引き続き一層の御支援、御協力を賜りますよう、お願いいたします。

令和5年10月

広島県立総合技術研究所保健環境センター
センター長 波谷 一 宏